

森の中から

海の見える美術館

をつくります



(イメージ・スケッチ) *今後変更されることがあります。

横須賀市



美術館の必要性をこう考えます

- 文化は都市の根幹であり、「国際海の手文化都市」の都市像を実現するため、美術分野の基盤施設となります。
- 心のやすらぎ、心の豊かさやゆとりをもたらす生涯学習の場として、子どもたちにとっての情操教育の場としても重要な施設です。
- 優れた芸術家の作品を良質の姿で後世の市民に残し、感動や心の豊かさを伝えることが現在の市民である私たちの責務です。
- 音楽のための「横須賀芸術劇場」は10年前に完成し、本市の文化水準の向上とイメージアップに大きく貢献しています。美術館をつくることにより、さらなる文化水準の向上が図られます。
- 全国の公立美術館が所有する優れた作品を、横須賀にいなから見ることができます。（美術館がなければ借りることができません。）

美術館を今つくる理由は

- 横須賀に生まれ、育ち、住んだことのある本市にゆかりの深い画家から多数の作品寄贈を受けています。
- 長い時間をかけて収集、寄贈された4,111点にのぼる作品が市民共有の財産としてあります。
- 作品は、収蔵庫がないために東京の倉庫会社に有償で預け入れています。
- それらのすばらしい収蔵作品を早く市民に鑑賞していただく場を確保する必要があります。
- 市制施行100周年の記念事業としてスタートし（平成13～17年度に設計・建設）、平成19年のオープンを目指しています。



安井曾太郎《外房風景(太海)》



朝井閑右衛門《薔薇》

こんな収蔵作品があります
市民の皆さまの共有財産です

現在の収蔵作品数は **4,111点** です。主なものは、

種類	作者名	作品名
日本画	今村紫紅 (いまむら・しこう)	《黄石公・張良》
	横山大観 (よこやま・たいかん)	《陶靖節》
	前田青邨 (まえだ・せいそん)	《をぼこ》
	月岡榮貴 (つきおか・えいき)	《風神雷神》ほか約1,000点
	平山郁夫 (ひらやま・いくお)	《吉祥瑞応》
洋画	安井曾太郎 (やすい・そうたろう)	《外房風景(太海)》
	佐伯祐三 (さえき・ゆうぞう)	《窓のある建物(パリ風景)》
	児島善三郎 (こじま・ぜんざぶろう)	《独立美術首途(第2の誕生)》
	松本竣介 (まつもと・しゅんすけ)	《お濠端》
	朝井閑右衛門 (あさい・かんえもん)	《薔薇》ほか約1,400点
	島田章三 (しまだ・しょうぞう)	《横須賀》ほか約100点
	奥谷博 (おくたに・ひろし)	《雉とサギ》
水彩画	谷内六郎 (たにうち・ろくろう)	《光を使う燈台の子》ほか約1,300点
染色	中村光哉 (なかむら・こうや)	《秋日》ほか25点

こんな美術館です

美術館は、土地約2.2ha、地上1階、地下1階、延べ床面積約7,000㎡です。

- 著名な画家の作品を展示する企画展示室
- 朝井閑右衛門作品を展示する記念室
- 谷内六郎作品を展示する谷内六郎館（別館）
- 地域に根ざした若く新しい作家の育成を図る小展示室
- 子供たちが授業の一環としても使うことができるワークショップ室
- 匠秀夫蔵書（美術関係図書約20,000冊）を含めたアートライブラリー
- 海を眺めながら食事のできるカフェ・レストランやミュージアムショップ



谷内六郎《光を使う燈台の子》

ステキ





建設予定地は観音崎公園です

建設予定地の観音崎公園（走水園地）は、

- 国から園地約2.2haを無償で貸与されるので、土地購入費はかかりません。（もし市街地で購入するとすれば、約50億円かかります。）
- 市街地では、これだけ広い土地や素晴らしい景観は得られません。
- 観音崎は、海と緑に恵まれ市内随一の観光客（年間約230万人）を誇ります。
- 十分な駐車場を確保できる上、公共交通機関（電車・バス）を利用でき、便利です。



建設費はこうなっています



- 建設費を仮に50億円と想定します。
- 財源として、建設費の75%に地域総合整備事業債という有利な市債を充てることができます。

建設費の財源内訳（仮に50億円とした場合）		
市債 37.5億円 （地域総合整備事業債：充当率75%）		一般財源 12.5億円 （残り25%）
地方交付税 16.5億円 （市債の44%相当）	一般財源 21.0億円 （残り56%相当）	平成15～17年度の 3年間で支出します。 市民一人当たり にすると年約966円 となります。
国から12年間で補てん されます。	25年間で返済します。 市民一人当たり にすると年約195円 となります。	

*一般財源とは主に市税

- 建設費50億円のうち、国からの地方交付税16.5億円で補てんするものを除く市の一般財源による負担額は、33.5億円となります。これは市の財政の中で十分に賄える額です。



管理運営費はこれくらいです



- 建物維持管理費は年約2億円です。
- 事業費（企画展、常設展、子どもの創作教室など）は年1～1.5億円です。



問い合わせ先：横須賀市教育委員会生涯学習部美術館開設準備室
 横須賀市小川町1 1番地 TEL(046)822-8482 FAX(046)822-6849
 E-mail→ma-bes@city.yokosuka.kanagawa.jp
 HPアドレス→ <http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/v-museum/>